レイルアラウンド東北2021

vol.5

旅のはじまりは大宮

誰かと待ち合わせて行く旅行ではないので、本来の旅の始まりは自宅なのだが、旅気分は大宮から始まる。乗車券が大宮からだというものもある。東北新幹線に乗るので大宮駅前にある盛岡開業時に走った200系の車輪をみて旅の成功を祈願する。ご利益があるかは不明だが。

東北新幹線の停まる大きな都市の駅にありがちな立て看板の駅名看板が大宮を首都圏に最も近い地方都市に感じさせる。乗る列車までは1時間ほどあるが新幹線ホームに向かう。

はじめに

2016年に青春18きっぷで東北を旅行したときに、悪天候を理由に花輪線に乗ることが叶わなかった。今回は花輪線を含む東北の周遊旅に出ることにした。東北で出会う列車には力強と優しさを感じる。ローカルに根ざす東北で出会った車両、景色を本号では紹介したい。一泊二日の旅行は列車に乗るのがほぼではあるが「Rail Around Tohoku 2021」という移動の記録を綴る。

◀乗車券

Rail around
Tohoku 2021

Contents

旅のはじまりは大宮……01
東北新幹線の個性……02
こまち9号入線……04
時速320キロの快走……06
現在を駆ける未来……08
人が紡ぐシステム……10
さよなら盛岡……12
少しでも知りたくて……14
花輪線……16
大館駅について……22
渋谷と大館……24
秋田色……26
EF510……28
特急つがる……30
秋田駅……34
特急いなほ……39
新潟駅着……48
Maxとき330……52

東北新幹線の個性

乗車するこまち9号を待つ間、やってくる列車の写真を撮る。それぞれの目的地が異なる東北新幹線は個性に満ち溢れている。山形新幹線のE3系は塗装がリデザインされてから評判が二分するが私はシンプルな造形に近年のE5系やE6系のような車体の上部にカラーリングを持たせるトレンドにうまく追いつかせたようなデザインに好感が持てる。

こまち9号入線

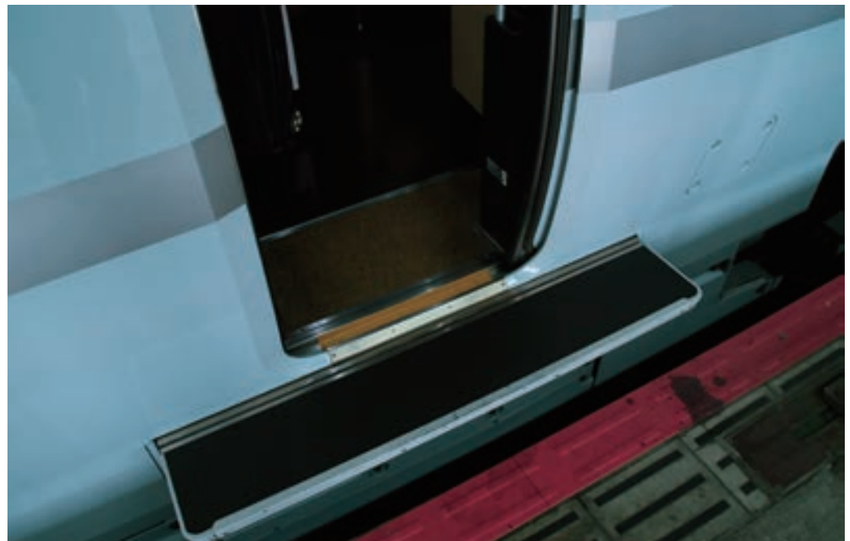
最初の目的地は盛岡駅、秋田まで行かないのにこまちに乗るなんて変だなんで思わないで欲しい。速達性と座席指定の入手性からそうせざるを得なかったのだ。E6系の不思議な先頭部形状が際立つ一枚。

時速320キロの快走

こまち9号に乗り込んだ。鉄道マニアはミニ新幹線の車体ステップを写真に納めておきたい。そんな生き物だ。

車窓は見慣れた風景から新鮮な風景に移ろいでゆく。利根川は地元だからわかるが、その先山の形をみてもあれが何山なのか何岳なのかわからことが悔しい。車窓案内アプリでもあれば面白い、乗車体験もアップデートされていくだろう。

こまちは最高時速320キロメートルで快走する。フルアクティブサスペンションだとか車体傾斜機構だとかとにかくハイテクノロジーな乗り心地が天気も相まって気持ちよかった。列車は約2時間ほどで盛岡駅に到着した。



現在を駆ける未来

盛岡駅で列車を降りるとホームに挟まれた線路に2本のE5系が天窓から差し込む光に照らされとても美しかった。いまを駆ける未来、今を走る未来の形が私も歳を取ったなとしみじみ感じた。

人が紡ぐシステム

乗ってきたこまち9号を見送る。そしてそれに続いてはやぶさも出発した。鉄道は人が紡ぐシステムだ。表舞台で活躍する人がいればメンテナンスや運行指令を支える人もいる。頼もしい鉄道員の姿が鉄道に安心をもたらす。無人化、自動化の波はどこまで進むかわからないが今のスタイルは好きだ。車両自体の人気だけじゃない。鉄道の魅力は奥深い。

さよなら盛岡

国際興業バスによく似たバスを見るのが楽しみだった。そんな盛岡の滞在は短い、先を急ぐ。冷麺やわんこそばを食べたかったが断念し、売店で駅弁と麦茶を買う。駅には鉄道模型の製品化を知らせる広告が掲出されていた。好摩まではいわて銀河鉄道線に乗る。ラッピング車両だった。

少しでも知りたくて

前面展望はその路線を知る格好のヒントだ。上下線で路盤の高さが違ったり、トンネルがあったり、古めかしい跨線橋のある駅が存在したり。盛岡から好摩はそんなに距離はない。通常色の７００系も写真に収めることができた。花輪線の列車は始発が盛岡駅だが、電車の快走ぶりを感じたくて好摩まではＩＧＲの列車に乗った。

花輪線

東北本線の好摩と奥羽本線の大館を結ぶ非電化路線が花輪線だ。東北本線から転線して好摩駅に入線するのは、キハ110系のキハ111＋112のタイプだ。

青春18きっぷの旅人と地元の利用客で車内はそれなりに賑わっていた。

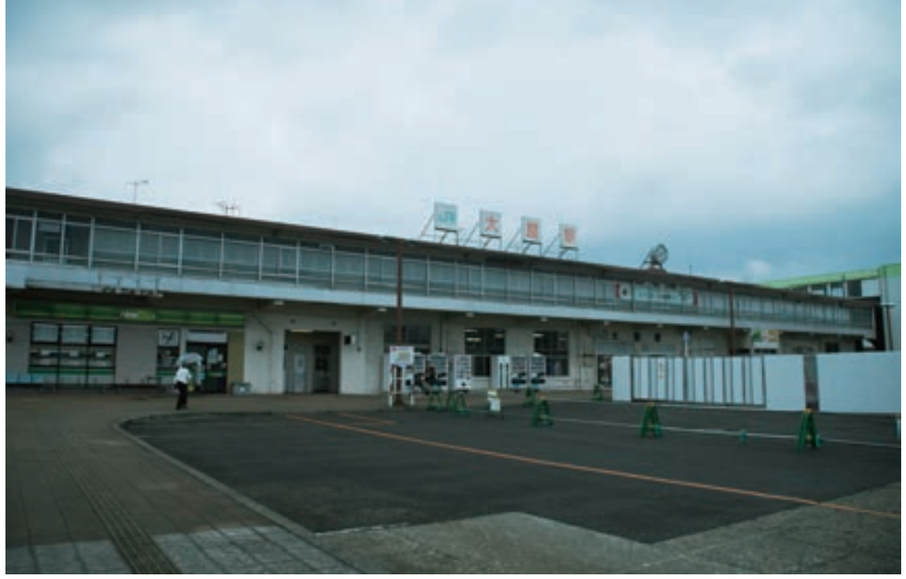
私はうにごはんを食べた。

単線非電化に途中雨にふられたのもあり、センチメンタルな気持ちになった。

けれども着実に歩みを進めている、旅程の完遂に希望が見えた。

列車は十和田南で進行方向が変わる。

大館まではあと少しだ。



大館駅について

花輪線の旅が終わり、大館駅についた。
キハ110には転落防止幌がついていた
り、みためがよく見る模型と違うと感
じられた。701系が出発する。緑色
の縦長の駅名標がこの地域の駅の姿を
特徴付けているようだ。
乗り継ぎの特急つがるまでは時間があ
るので途中下車をする。

渋谷と大館

渋谷駅前にある忠犬ハチ公の生まれ故郷である大館、その縁で渋谷駅前に展示されていた東急5000系通称青ガエルが大館駅前に移設された。そのことをあまり知らないでいた私には大きなサプライズだった。

秋田色

ピンクの帯が特徴の701系秋田色。東北本線筋の701系とはテールライトの位置が異なるのが外観の特徴だ。キハ54にも似た国鉄ルックなデザインだが、軽量ステンレスの構造や台車などは同世代の209系を感じさせる。この秋田色は、青森から秋田、そして新庄までの奥羽本線の普通列車の主役だ。跨線橋の上から眺めてみたり、改札ごしにみたり。その土地の日常を感じながらシャッターを切った。今回の旅行では乗車こそはしなかったが、模型が欲しくなった。

EF510

貨物ちゃんねるを見るとEF510が向かってくることがわかる。レッドサンダーカッコ良すぎないか？ただそれだけ。貨物が誇る名機だと思う。誰が判断するかは知らないが。

特急つがる

E751系で青森〜秋田間を運行するのが特急つがるだ。大学以来2度目の乗車機会となった。東北のインターシティと言った様相を見せる。

初日の移動はこのつがるでラストとなる。

秋田駅

秋田新幹線を含む奥羽線と羽越線、それに男鹿線の列車も出入りする秋田駅は交通の要衝だ。EF510のトップナンバー男鹿線のアキュムを見ることがかなった。秋田駅近くの秋田ホテルにチェックインし向かいの海鮮居酒屋で適当に飯を済ます。

翌朝、ホテルをゆったりとチェックアウトし、駅でお土産を買い、スターバックスでワッフルを食べる。

秋田新幹線を見るが、秋田新幹線には乗らない。それが「レイルアラウンド東北」という旅のスタイルである。

OPEN THE BARGAIN

STARBUCKS COFFEE

EF510-4

JR

特急いなほ

秋田からは羽越線の特急いなほに乗る。瑠璃色のE653系だった。グリーン車の日本海側に座った。駅弁を食べながら、のんびりと颯爽との間くらいで駆けていく。新しいかっこいい架線柱、風力発電機、日本海を眺める。村上駅手前のデッドセクションでは室内灯が消えた。オリジナルカラーのいなほは夏に映えるデザインだ。

KAIRI

16

新潟駅着

特急いなほは定刻通りに新潟駅に到着した。高架化した在来線ホームに降り立つのは初めてだった。誇張しすぎない、けれど開放感があホームだった。駅舎の完成のころにまた訪れたい。

新潟駅

4
5
6

Maxとき330

オール2階建ての巨体新幹線E4系が2021年10月で運行を終了する。早めに思い出に残しておこうと新潟から大宮まで乗った。ユニークなライト部分のデザインは愛嬌がある。在来線乗り換えホームと新幹線ホームの両方の扉が開く面白い光景も見ることができた。Negiccoのリュックとe4系のコラボも撮影できた。

新潟
Niigata

Negicco

おわりに

レイルアラウンド東北2021
ご覧いただきありがとうございました。

駆け足の旅ですが、一人旅の自由を満喫できる旅となりました。新幹線と特急、そしてローカル線を使い分けて、旅を楽しみました。ルーティングの参考にしていただければ幸いです。

ツイッター@ryojo_ho
インスタグラム@ryojohoの
フォローと
感想メッセージをお待ちしております。

www.ryojoho.com